

5 定額金の儀上申

〔明治四年九月〕

文部省定額之儀ニ付申上

先般当省被置候ニ付テハ諸入用金追々定額御定ニ可相成候ヘ
即今諸仕払等立ドコロニ差支候ニ付大凡見積ヲ以当分壹ヶ月金
八百兩宛御渡相成度左候ヘハ兩三ヶ月諸入費仕払精算相立候上
平均ノ高ヲ概シ確定ノ員数可申上候此段大蔵省ヘ早々御達相成
度存候也

辛未九月廿七日

文部省

正院御中

(注記1)

追テ本文ノ趣当省ヨリモ大蔵省ヘ一応申入置候也

先刻差出候文部省定額ノ儀ニ付申上書ハ御取消シニ相成候様致
シ度此段御依頼申進候也

辛未九月廿七日

文部省

正院御中

〔右之通申ニ付本書差戻ス〕

(注記1)

「三十九」(簿冊内件名番号)

〔辛未自七月至十月
公文録 文部省之部
2A, 9, ⑤589
乾〕